

## 掛合町波多地区 波多温泉の運営について

Q262

波多温泉について、灯油の異常な価格高騰で運営が大変困難である。50%も値段が上がっている。市内には他に4つの温泉があるが、どのようにしておられるか聞きたい。毎月26日を風呂の日として入浴料を300円のところ100円で提供しているが、それもやめなければならぬと運営委員会で話しが出ている。

A：他の温泉施設も原油高騰の影響を受けており、相談を受けていますが、指定管理料の中でやりくりしていただいています。

農業など他の産業も同じで、雲南市も緊急かつ期限限定の方策を講じなければならぬと各組織と検討をしていますが、国としても方策が出ておらず、難しい状況ですのでご理解をいただきたいと思います。  
(産業振興部)

## 加茂町(神宝の里21・三代下神原・大竹延野) 案内看板の設置について

Q263

銅鐸が国宝となったが、案内標識がなく、宍道ICや国道沿線に(案内看板が)一切無い。高速を下りてから案内が少なく、解り難いという指摘を(銅鐸のボランティアガイドをしていて)よく受ける。

A：高速を降りて、岩倉までの標識が無く、案内不十分ということで県と協議しており、3ヶ所について設置いただける見込みです。出来るだけ早い段階で設置します。(産業振興部)

## 木次町三新塔地区 木次公園の整備について

Q264

(木次公園について)地域住民としてこの公園の現状、将来について一定の関心を持っているが、市としては、今後この公園のあり方についてどのように考えられているか、今後どのような計画があるかお聞かせ願いたい。

A：現在雲南市では、市の建設計画に基づいて諸事業を実施しているところですが、ご提案のありました木次公園整備事業については、これまでの経過も踏まえ今後新たな事業の導入とのマッチングも含め検討してまいりたいと考えております。

当面は、これまでどおり除草作業等を中心に散策路や広場の維持に努めるとともに、老朽化した児童遊具・公衆便所・水道施設の撤去を順次行っていきたいと考えています。なお、市民の皆様には木次の町

## 平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

並みを一望できる木次公園ですので、公園施設をぜひ活用していただきたく、行事・催しの利用等がございましたら積極的に市といたしましても協力を行いたいと考えています。（木次総合C）

### 木次町新市地区 さくら基金について

Q265

さくらの基金について、桜に使っていただきたい。一般財源としないように。

A：しっかり堅持していきたいと思います。（市長）

### 大東町海潮地区 海潮温泉の現状と今後の市の推進方針について

Q266

皆さんもご承知のとおり雲南市には湯村温泉と海潮温泉という温泉が2つある。この2つとも風土記にも載っているほど古い温泉だ。私の記憶が正しいか分からないが、合併をしてから新しい泉源を掘られ、豊富な湯量・温かい湯が出るようになった。

夜になると昔はもっと明かりが点いて海潮温泉も賑やかだったような気がしている。これまで4軒あった温泉旅館の中で2軒の灯が消えた状態だ。まず第1点として海潮温泉の現状、空いた旅館、このままでずっと放って置くとだんだん幽霊屋敷という様な形になってくる。私はこの温泉は、天からの恵みでもあったり、また温泉の無い地域ではこれに多額なお金をかけて掘ってでもやる時代だ。現状の温泉を見ていると観光の目玉としても中々上手くいかない様な気がしている。1軒は新しい経営者に替わっておられ頑張っておられる。隣の方で空いた施設がそのまま、これもずっと放って置く訳にはいかない様な気がする。

A：海潮温泉は、「出雲國風土記」にも記述の残る名湯で、松江の奥座敷、山あいの秘湯としての人気から、平成19年には約12万6千人の観光入込み客がありました。

この温泉は市内でも有数の観光資源との位置づけから、雲南市において平成17年度に4つめの泉源を掘削。また、平成18～19年度には老朽化が顕著になった給湯管施設を水管橋から道路埋設に更新するなど、温泉の安定供給と有効活用をめざした設備投資も行ったところです。

しかし、近年、入り込み客数が減少傾向にあり、平成16度以降、それまで4軒あった民間の温泉旅館が2軒となるなど、海潮温泉旅館街の空洞化が進んでいます。

また、市が管理する健康ランドゆとりの里（平成2年建設）、桂荘（昭和59年建設）、かじか荘（昭和49年建設）の3つの温浴施設についても、施設整備後の時間経過による老朽化や近隣自治体での類似施設の開設などにより、ピーク時の入り込み客数およそ16万人（年間）を大きく下回る原因となっています。

平成17年3月に樹立した新市建設計画には、大東地域におけるオンリーワンプロジェクトとして「市民が憩う健康増進の場づくり・『湯の駅』温浴施設整備」が盛り込まれております。

現在雲南市といたしましては、平成24年度に市の収支の均衡を図ることを最優先に取り組んでいるところであり、今後の財政計画の中で検討してまいりたいと考えています。

また、当地の温泉については、重要な観光資源として、あるいは市民の皆さんの健康増進の場として認識をいたしており、この有効活用方策の検討を行い、方向性を市民の皆様にお示ししたいと考えておりますのでご理解をお願いします。（産業振興部）

Q267：[関連質疑]

海潮温泉の再開発は如何かという事は、先程も話した。4軒あった中で2軒が、1軒は辞められて1軒が空き家になっている。私が思うには、その場所を市で買い上げ、もう少し綺麗にしてはどうか。例えば、豊富な湯量が出ればそこで温泉公園なり足湯の施設なり駐車場の整備とか、そういう事も出来はしないかなという事で、来年してくださいとか、再来年してくださいとかという話では無い。地域の課題としてそういう場所があり、今までも多額な設備投資をしており、市としてもこれを存続するという事が大事ではないかと思っている。

天からの恵みというか、先程お話があったが、3つの施設の公設風呂がある。低料金で皆さんが入られる風呂だ。これは大東町時代3つの施設を全て維持し、雲南市になってもそのまま継続になっている。これも先ほど話があったように、施設全てが古くなっている。修繕が必要だ。そこのところもいち早く手を打ってもらい、その統廃合これも致し方ない事かもしれないが、今のサービスが低下する事が無いように、住民には夢と希望を与えていただきたい。このあいだ今年の夏は凄く暑かったという話を振興会でされた。住民も色んな部分で我慢をし日々生活をしている。それに夢を与えていただきたい。

A：今、温泉地、これからの健康長寿をまちづくりのテーマに据えてやって行かなければならない雲南市にとりまして、本当に何よりも替え難い地域資源だと思っておりますが、一方ではご承知のとおり経済情勢でして、今温泉地は大変です。

海潮温泉は「湯の里構想」という事で、大東町が合併をして雲南市になる際にオンリーワンプロジェクトとして雲南市に引き継いだわけですが、その当時から温泉地をめぐる状況は厳しいよという事で、また一方では厳しい財政状況という事からもう少し後回しにしようという事で、今に至っている訳ですが、その過程の中で2つが閉鎖になったという事です。閉鎖になりそうな時に、実際問題として民間の業者さんがあそこを買い取って持ち主を変えた形で再スタートは出来ないかという申し入れがあり、是非それを実現したいという事で雲南市としても間に立って色々お世話をしようとした訳ですが、民間で買って新しい持ち主となってやってみようかなという申し出をされたところも色々検討された結果、なかなか採算ラインに乗らないという事で結局は購入されなかったという事で、今2つが閉鎖になっている状況です。

しかし、何物にも替え難いこの温泉という資源ですので、これを何とか活かして行こうという長期戦略をしっかりとって、いつか時期の到来を待って、或いは時期を出来るだけ前倒しに引き寄せて、これを活かして行く方策を民需の拡大による事を主眼にしながら、2つの旅館については検討していく必要があると思っております。

一方行政が関わっている施設といたしまして、「ゆとりの里」「桂荘」「かじか荘」があります。これをどうするか、これもご承知のとおり今申し上げたとおりかなりの古い施設です。特に「ゆとりの里」については、いつどうなるか分からないボイラーの状況とかご承知のとおりですので、これをどのようにやっていくかという事は、指定管理を今お願いしているところでして、十分な協議をやっていかなければいけません。今日も21年度へ向かっての政策検討会議を行って海潮温泉の公共施設がらみの扱いについて検討したところです。

21年4月を迎えるにあたって、本当にどうして行くかという事を、方向性を出さなければいけないと思っております。また相談にもお邪魔させていただきます。

本当に何物にも替え難い温泉という地域資源をいつかは必ず活かしていかなければならないと思っておりますので、ご理解頂きます様よろしく申し上げます。（市長）

#### 大東町海潮地区 観光ボランティアガイドについて

Q268

海潮地区も観光ボランティアガイドを昨年養成された。私も参加し、勉強させていただいたけれども、いざ観光客が来て、貴方やりなさいと言われてもとても出来るような、神様の名前等とても覚えられなかった。また今年引き続き28日から今年度のが始まるので参加しようと思っている。市長の挨拶の中にあつた「うん、何？」の映画で、その影響が観光客がぼちぼち増えてきたとおっしゃったが、雲南市の観光ボランティアは、観光客にガイドが出来るような方が、それともバスガイドさんが案内しているのか。

A：昨年一年間かけて、50数名の観光ボランティアの養成講座を行い、今年の4月から観光ボランティアガイドという事で登録制度とし、11名に初代の観光ボランティアになって頂きました。

市長のほうからありましたが、映画「うん、何？」の影響から、京都やそういった所から雲南市へロケ地ツアーという事で来られる方もいますし、市内の中でも掛合町の方が大東へ行ってみるとか、大東の

## 平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

方が三刀屋へ行ってみられるとか、そういう動きも出てきていまして、そうした方をボランティアガイドの方は大体一通り案内をして頂けるような状態になっています。

今年も引き続いて養成講座を始めていまして、また来年度には11名プラス何名かの方にはまた登録をしていただきたいと思います。少し研修を重ねて行くという事ですので、またご参加を頂ければと思っていますのでよろしくお願いします。（産業振興部）